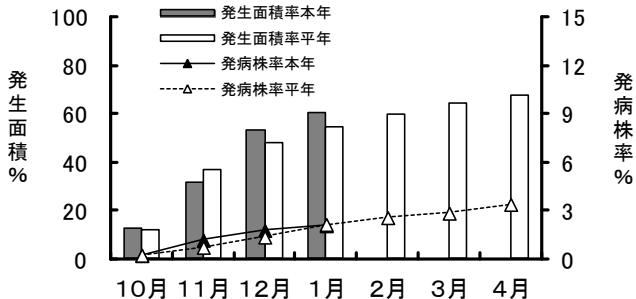


平成26年2月4日

高知県病害虫発生予察1月月報及び予報第11号(2月) 野菜類ダイジェスト版

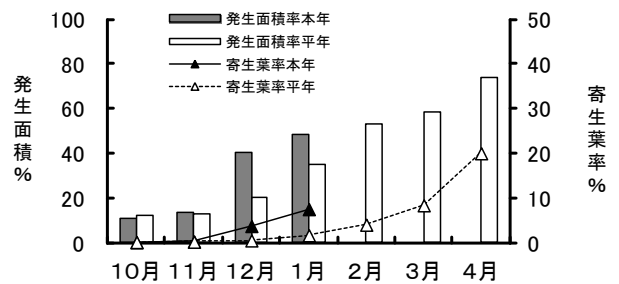
● 抑制・促成キュウリ(中央部・中西部・西部)

黄化えそ病 発生量: 平年並



キュウリ(抑制・促成栽培)における黄化えそ病の発生推移

ミナミキイロアザミウマ 発生量: 平年並

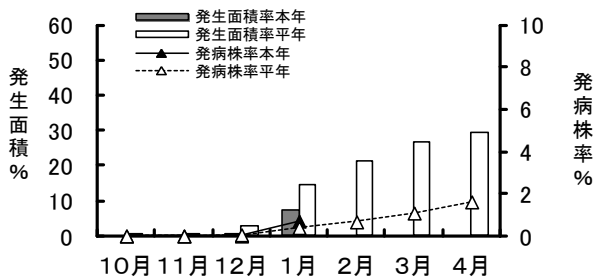


キュウリ(抑制・促成栽培)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

黄化えそ病は平年並の発生です。今後は気温も徐々に上昇してきます。既発ほ場では、発病株は伝染源となることから早期除去に努め、媒介虫のミナミキイロアザミウマの防除に努めてください。

ミナミキイロアザミウマは、平年並の発生となっています。生長点部にいる場合は見つけにくく、薬剤もかかりにくいことや、密度が高くなると防除が困難になることから、初期防除の徹底及び丁寧な散布を心がけてください。

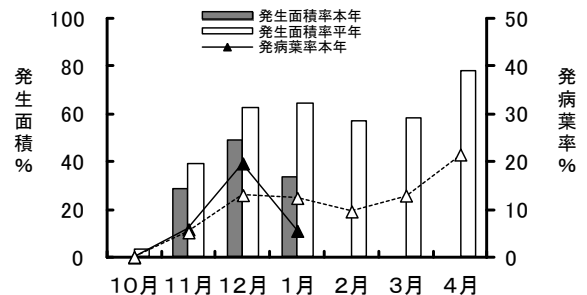
つる枯病 発生量: 少



キュウリ(抑制・促成栽培)におけるつる枯病の発生推移

つる枯病は、全体的には少発生となっています。向こう1ヶ月予報では、気温は低めと見込まれます。ハウス内を締め切ることによって換気が不十分になると、現在の発生状況からやや多発生で推移する可能性があるため、早期発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

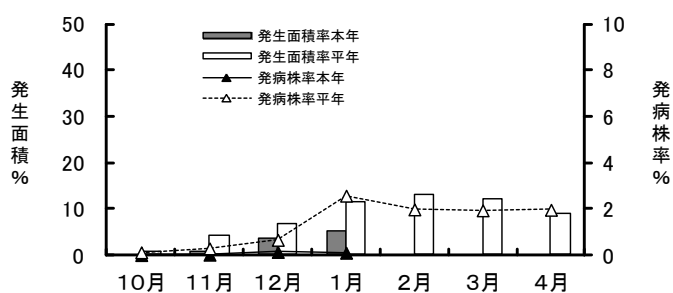
べと病 発生量: 少



キュウリ(抑制・促成栽培)におけるべと病の発生推移

べと病は少発生となっています。今後も、平年を超えるような大きな増加はないと思われますが、蔓延すると、薬剤散布による防除は困難となりますので、早めに発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

褐斑病 発生量: 少



キュウリ(抑制・促成栽培)における褐斑病の発生推移

褐斑病は全体的に少発生となっています。本病は、蔓延後の薬剤散布による防除が困難となりますので、早めに発見し、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

今年度は県内全域で少発生であり、上記のような病害が急激に伸展することはないと思われますが、つる枯れ病と同じくハウス内を締め切るなど、換気が不十分となるような多湿条件で発生しやすいので、注意が必要です。

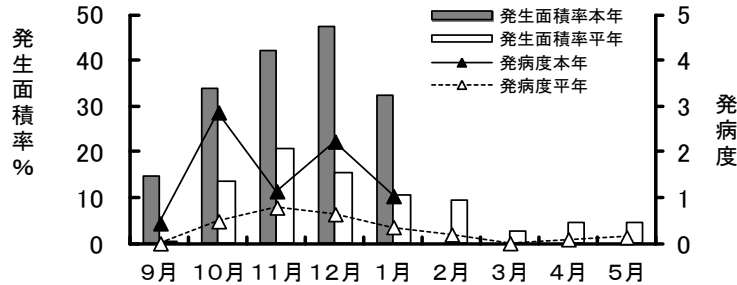
平成26年2月4日

高知県病害虫発生予察1月月報及び予報第11号(2月)

野菜類ダイジェスト版

● 促成ナス(東部・中央部・西部)

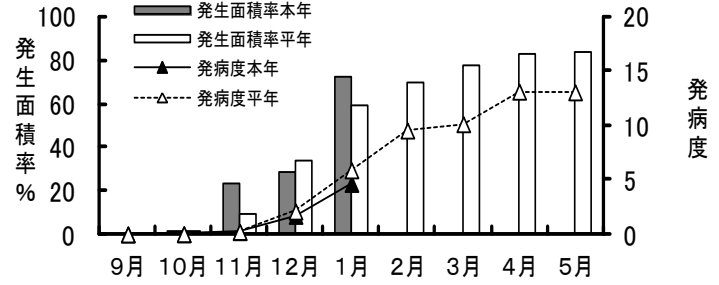
うどんこ病 発生量:多



ナス(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

先月同様に県東部と西部で多発生となっています。今後の気象が低温気味で、晴天が続くと予想されていることから、病勢の進展に注意し、早期に防除を行ってください。

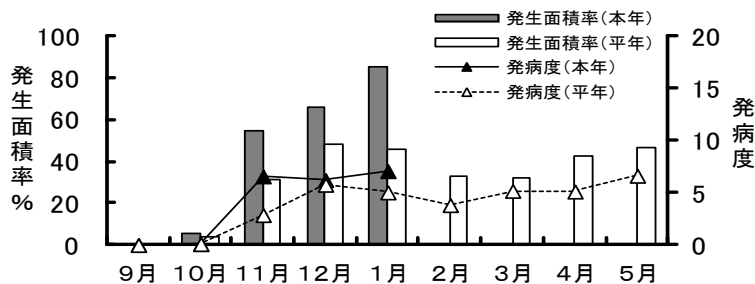
すすかび病 発生量:平年並



ナス(促成栽培)におけるすすかび病の発生推移

県全域で平年並の発生ですが、先月から発生面積が大きく増加しています。今後の気象予想から発病を助長する要因は少ないですが、無加温栽培などでは蒸し込みによる換気不足も懸念されますので、病勢の進展には十分ご注意ください。

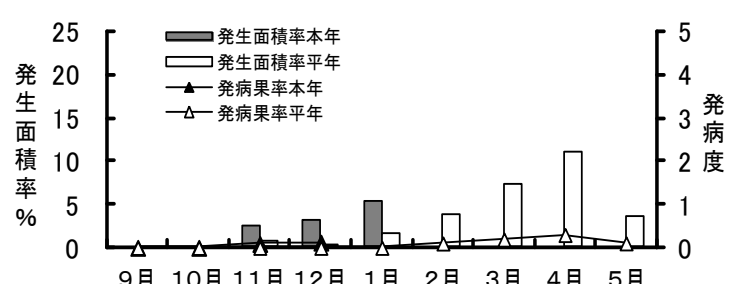
黒枯病 発生量:多



ナス(促成栽培)における黒枯病の発生推移

県東部で発生が多くなっています。気象予報では、気温が低い状態が続く、晴天日が多くなるとの予想です。発生を助長する気象条件ではないと思いますが、すすかび病同様に、今後の病勢の進展に注意してください。

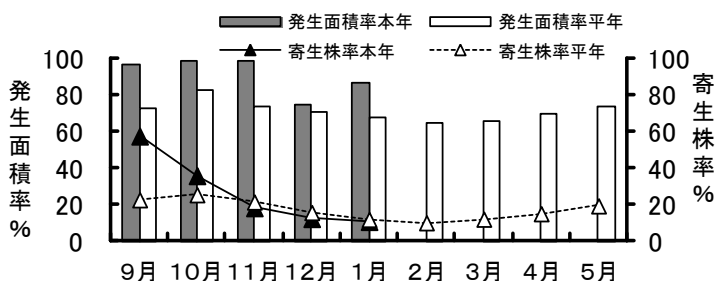
灰色かび病 発生量:多



ナス(促成栽培)における灰色かび病の発生推移

県東部、中央部で程度は低いものの、多発生となっています。今後は低温傾向で、晴天が多くなるとの予想から、発病を助長する要因は少ないとは思いますが、無加温栽培などで蒸し込み気味の管理にならないように注意しましょう。

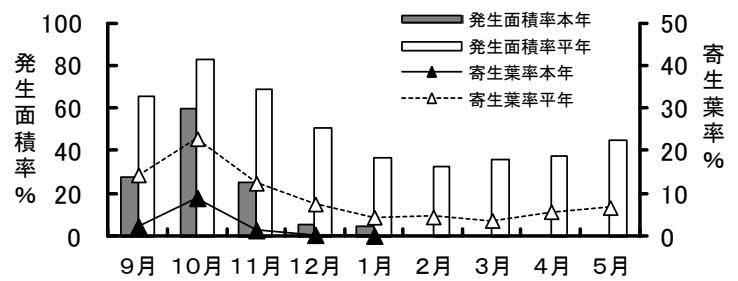
タバコナジラミ 発生量:平年並



ナス(促成栽培)におけるタバコナジラミの発生推移

県全体で平年並の発生です。現在は成虫がわずかに見える程の発生ですが、増殖が早いので、微生物製剤や選択性殺虫剤等での防除により密度上昇に気をつけてください。

ミナミキイロアザミウマ 発生量:少



ナス(促成栽培)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

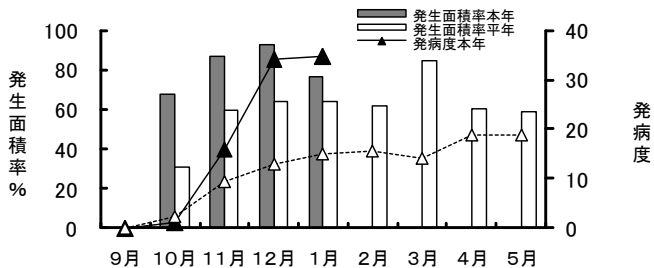
県全域で発生が少ない状態です。今後も、急激な密度の増加はないと思いますが、発生をよく観察し初期防除に努めてください。天敵導入ハウスでは薬剤の選定に留意してください。

平成26年2月4日

高知県病害虫発生予察1月月報及び予報第11号(2月) 野菜類ダイジェスト版

● 促成ピーマン(東部・中央部・中西部)

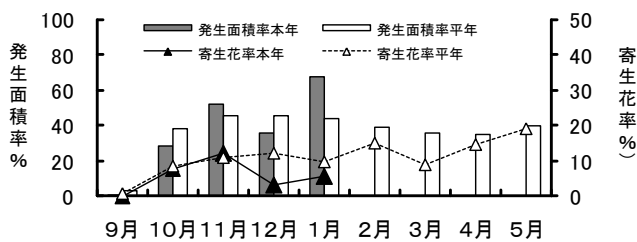
うどんこ病 発生量: 平年並



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

全般的に平年並の発生となっています。向こう1ヶ月予報では気温は平年並からやや低め、降水量、日照量は平年並と予想されています。現在の発生状況が続くと予想されますので、予防散布及び初期防除に努めてください。硫黄くん煙器を設置している場合は、状況に応じて稼働時間を調節しましょう。

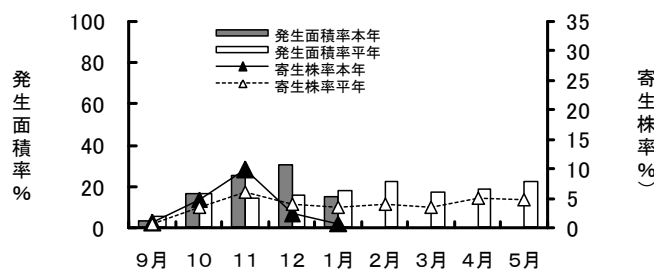
ミナミキロアザミウマ 発生量: やや多



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるミナミキロアザミウマの発生推移

全般的にやや多発生となっていますが、天敵の定着しているほ場での実被害は多くはないと思われます。今後も同程度の状況で推移すると予想されます。天敵の状況に注意するとともに、薬剤散布を行う場合には、天敵への影響と抵抗性の発達を回避するよう、十分考慮して使用薬剤を選定してください。

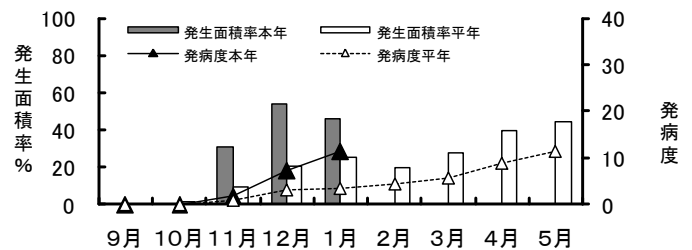
アブラムシ類 発生量: 平年並



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるアブラムシ類の発生推移

アブラムシ類は全般的に平年並の発生で、ワタアブラムシが主体です。一部でモザイク病の発生も見られています。アブラムシによる媒介に注意し、感染株は早めに除去しましょう。ヒラズハナアザミウマは全般的に平年並の発生です。いずれも密度が高くなると防除が困難となりますので、低密度時からの防除に心がけてください。天敵導入ハウスでは、天敵の定着までは薬剤の散布は極力控え、散布する場合は影響の少ない農薬を選定しましょう。

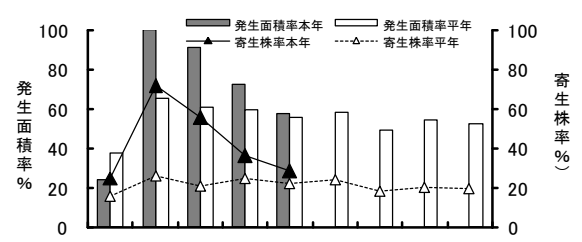
斑点病 発生量: 多



ピーマン・シトウ(促成栽培)における斑点病の発生推移

全般的に多発傾向が続いています。今期は黒枯病の発生は少なく、本病のみでの実被害は少ないと思われますが、蔓延すると防除が困難になるので、予防散布及び初期防除に努めてください。なお、薬剤のローテーションを行い抵抗性の発達を回避してください。

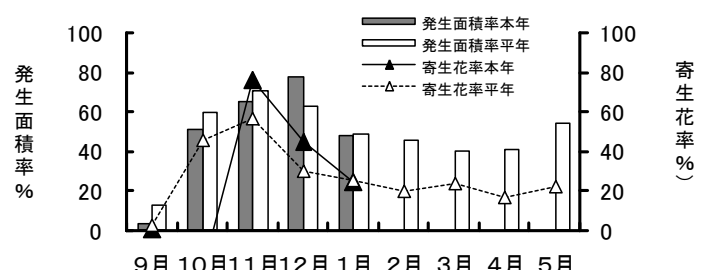
タバココナジラミ 発生量: 平年並



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

全般的に平年並の発生となっています。スワルスキーカブリダニがほとんどのほ場で導入されており、定着が確認されているハウスでは、コナジラミの成虫が低密度で見られるくらいなら、問題とならない程度と考えられます。防除に際しては天敵への影響を十分考慮して薬剤を選定してください。

ヒラズハナアザミウマ 発生量: 平年並



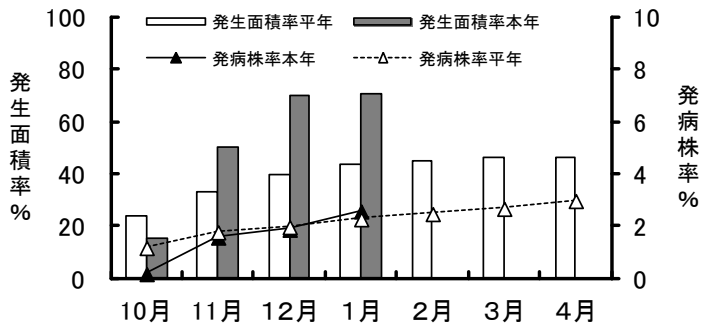
ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるヒラズハナアザミウマの発生推移

平成26年2月4日

高知県病害虫発生予察1月月報及び予報第11号(2月) 野菜類ダイジェスト版

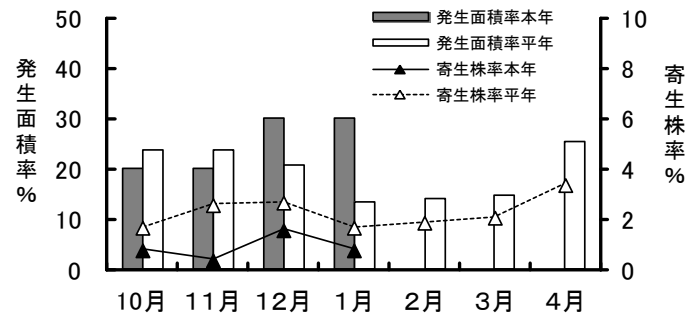
● 促成トマト(中央部)

トマト黄化葉巻病(TYLCV) 発生量: やや多



トマト(促成栽培)における黄化葉巻病の発生推移

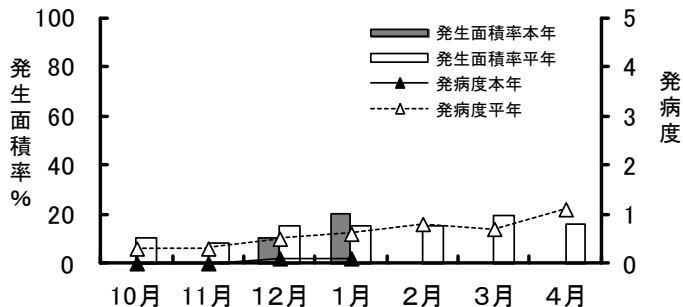
タバココナジラミ 発生量: 多



トマト(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

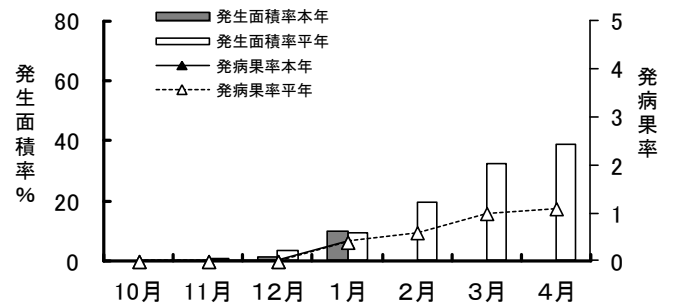
黄化葉巻病の発生面積はやや多発生で推移しています。媒介虫のタバココナジラミの発生面積も多くなっていることから、今後急激に増加する可能性も考えられます。施設内でのタバココナジラミの増殖や飛び込みに注意を払ってください。併せて、既発ほ場では新たな発病株の早期除去に努めましょう。

すすかび病 発生量: 平年並



トマト(促成栽培)におけるすすかび病の発生推移

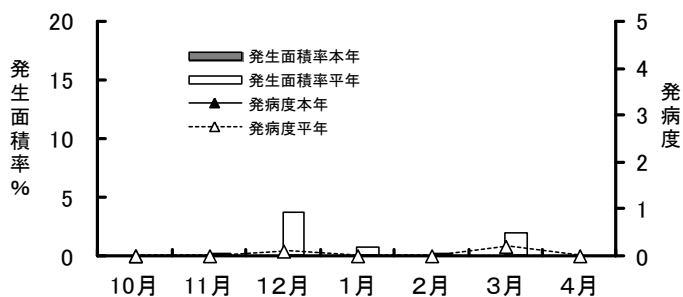
灰色かび病 発生量: 平年並



トマト(促成栽培)における灰色かび病の発生推移

すすかび病、灰色かび病ともに平年並の発生となっています。本病はハウス内を締め切るなど換気が不十分となるような多湿条件で発生しやすくなることから、適正な温湿度管理に留意してください。

疫病 発生量: 少



トマト(促成栽培)における疫病の発生推移

疫病は平年に比べ少発生となっています。今後も急激な病勢の伸展の可能性は少ないと思われますが、多湿条件で発生しやすいので、温度管理や湿度管理を十分にを行い、適正な温湿度管理に留意してください。